

5月14日(月曜日)

朝食は、昨日到着したブルガリアから来たボビーと二人。吉野から出発し、3時半頃島着したそう。私より随分早い。今日は弥山までで、私と同じ行程のようだ。ブルガリアにも3,000m級の山があり、冬には雪が積もることをスマホの写真で見せてくれた。昭文社の「山と高原地図」で調べてきたそう。和式のトイレに違和感がないか聞くと、ブルガリアのトイレも昔は日本の和式と同じ形式なので、違和感はないとのこと。

5:30 山上ヶ岳(第67 靡 1:20/1:16⇒7:15 阿弥陀ヶ森)

出発を前に、お世話になったご主人およびボビー氏と写真を撮る。



5:26 喜蔵院前ボビーと



5:26 喜蔵院前主人と



6:04 柏木道百四丁石碑

6:18 小笹の宿着(おざさのしゆく 第66 靡) 6:30 発

50年ほど前に、初めて山でテントで宿泊した場所だ。イメージに覚えがあるが、何か違って見えた。懐かしさがあったので、見て回っては写真を撮った。



6:08 柏木道百二丁石碑



6:19 小笹の宿と錫杖



6:19 小笹の宿_お堂



6:18 小笹の宿_パノラマ



6:24 小笹の宿小屋内部_パノラマ



6:24 小笹の宿_灯籠

6:58 阿弥陀ヶ森着(あみだがもり 第 65 靡 1:15/1:12⇒大普賢岳)7:08 発

阿弥陀ヶ森にも五番関にあったのと同じ女人結界門があった。同じように「登山者へのお願い」と女人禁制の旨説明してあった。



6:58 女人結界門



6:59 女人結界門_登山者へのお願い



7:18 大峯奥駈道石の標識



7:18 石楠花



7:18 経函石分岐(脇の宿(わきのしゆく)第 64 靡)



8:02 石楠花

8:20 大普賢岳着(第 63 靡 1:15/1:12⇒七曜岳)8:30 発



8:11 和佐又山分岐



8:20 大普賢岳



8:22 大普賢岳

10:26 七曜岳(しちようだけ第 59 靡 1:10/1:20⇒12:00 天川辻・業者還小屋)10:40



9:22 国見岳



10:26 七曜岳(第 59 靡)



10:27 七曜岳

10:45 和佐又山分岐



10:39 七曜岳からの展望



10:45 和佐又山分岐



11:02 石楠花と展望

11:44 業者還岳 11:30 業者還岳分岐⇒11:43 業者還岳 11:46⇒11:55 業者還岳分岐

業者還岳に近づくと、他の登山者チームが稜線ルート登っているのが見えた。計画にはなかったが、分岐にザックを置いて、山頂を往復することにした。山頂はシャクナゲの群生地だった。遅れて登って来た方をお願いして撮影してもらった。この山の進行側の稜線は急斜面で危険なので通過しないように、喜蔵院のご主人にも念をおされていた。分岐まで戻り、業者還岳巻いて通過した。

グループの人からこれからのルートにはヤマシャクヤクの花が咲いていることを教えてもらう。



11:44 業者還岳



11:45 業者還岳山頂の石楠花 1



11:45 業者還岳山頂の石楠花 2



11:45 業者還岳山頂の石楠花 3



11:46 業者還岳山頂



12:19 業者還(第 58 靡)

12:25 天川辻・業者還小屋(1:10/1:16⇒一ノ峠(いちのたわ))12:30 発
 発する頃、年配の二人組が業者還岳から降りてくるのが見えた。



12:25 行者還小屋



12:26 行者還小屋内部_パノラマ

この天川辻やこの先の一の峠の各峠付近には、東側の上北山村や西側の天川村から登ってこられるルートが何本かあり、登山者を何人か見かけた。この時期のお目当ては、ヤマシャクヤクなどの花で、私が知らない花の名前で咲いているかどうか聞かれたりした。

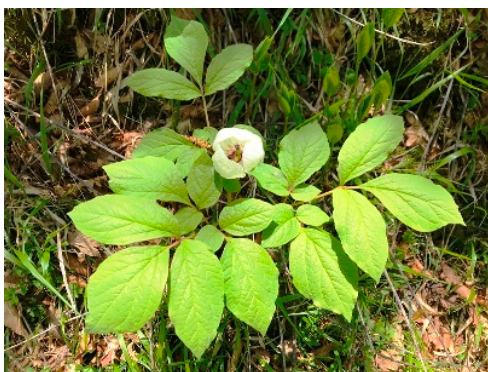


12:54 ヤマシャクヤク蕾

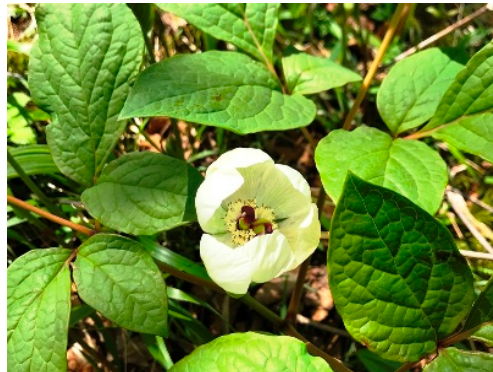


12:54 バイケイソウ群生地

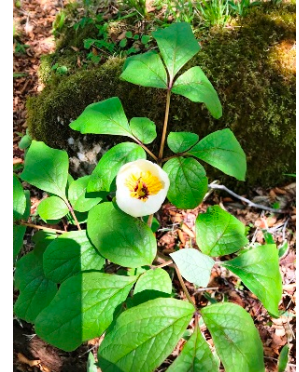
ヤマシャクヤクは、初めて見る花だ。シャクヤクの山版だと教わったので、想像したが、想像以上に見事だった。蕾状態が多かった。3-4日と短い開花期間のようなのだが、満開には若干早い感じた。カメラを構えてシャクヤクのお花畑に入り込んでいる人も見かけた。



12:55 ヤマシャクヤク一株



2:55 ヤマシャクヤクアップ



12:57 ヤマシャクヤク

ヤマシャクヤク: 開花時期は4-6月。花が開いているのは3-4日程度。和名の由来は、山地帯に生え全体がシャクヤクに似ていることによる。



13:08 行者還岳遠望



13:08 弥山・八経ヶ岳遠望

13:46 一ノ峠(いちのたわ第57 靡)着(0:20/0:26⇒14:00 奥駆道出合)13:56 発

なだらかで見通しが良く、歩くのに気持ちの良い尾根が続く。遥か遠くに平らな弥山と、尖った八経ヶ岳の山容が見られるようになった。標識には、「一ノ多和」と記載されていた。



13:28 行者還トンネル西口分岐



13:46 一ノ多和(第57 靡)

14:20 奥駆道出合(0:50/0:50⇒15:00 聖宝ノ宿跡)



14:20 奥駆道出合



15:01 弁天ノ森

15:30 聖宝ノ宿跡着(0:50/1:05⇒16:00 弥山小屋)15:45 発

高下駄を履いた僧が数珠と錫杖を持って座った銅像だ。座っているのは珍しい気がする。聖宝ノ宿跡でゆっくり休んだ。この後は、いよいよ今日最後の登りが始まる。銅像の横にお札が沢山置かれているが、ここは靡にはなっていないようなのだが…。一の峠の次の靡は、石休宿(いしやすいのしゆく)、その次は講婆世宿(こうばせのしゆく)、そして弥山と続く。後で調べると講婆世宿の別名が聖宝ノ宿のようだ。



聖宝

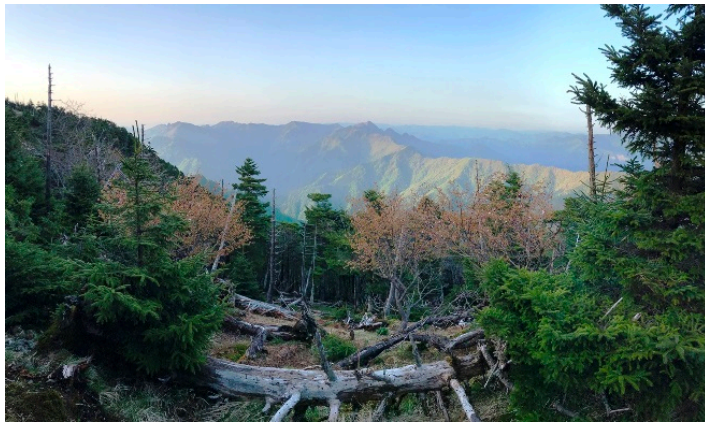
(しょうぼう、天長9年2月15日(832年3月21日) - 延喜9年7月6日(909年7月25日))は、平安時代前期の真言宗の僧。醍醐寺の開祖で、真言宗小野流の祖。また、後に当山派修験道の祖とされる。俗名は恒蔭王(つねかげおう)。天智天皇の6世孫にあたり、父は葛声王(かどなおう)という。諡号は理源大師。『古今和歌集』に歌1首あり。

15:30 聖宝ノ宿跡

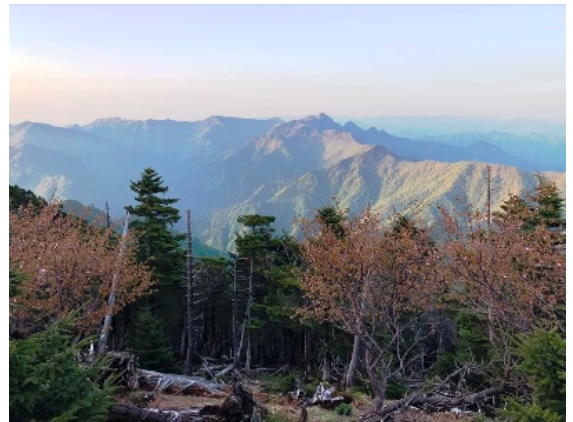
16:50 弥山(みせん第54靡)小屋着

宿泊手続き後、すぐに夕食。小屋は新しく小ぎれいだった。宿泊者は山上が岳の宿坊で同宿したボビーの他に、年配の登山者が2名の合計4名だった。個室で部屋を取ったが二段ベッドの大部屋だった。ボビーもこの小屋が気に入ったようだった。また食堂にはおばさんが居た。女性が居ると新鮮さを感じた。小屋内の食堂で、交信可能だとのこと。

食事後、周りの景色や弥山山頂の天河奥宮などを見て回った。



18:19 山上ヶ岳・大普賢岳など遠望



18:19 山上ヶ岳・大普賢岳など遠望アップ



18:20 天河奥宮前鳥居



18:23 天河奥宮(第54靡)

天河奥宮

天河大弁財天社(てんかわだいべんざいてんしゃ、**天河神社**)は、奈良県吉野郡天川村坪内にある神社である。旧社格は郷社。現在の運営は単立である宗教法人天河神社。弥山山頂(1895m)に奥宮(弥山神社)がある。



18:28 弥山から八経ヶ岳展望

弥山小屋

☎07476-3-0236 天川村 西岡満

07475-2-1332 現地

営業期間:4月末~11月始

定員:200人

宿泊料:8000円(2食付き)

素泊まり:5500円)

弁当:1000円

朝食:午前6時~

夕食:午後5時~

1957年厚生省が建設。

1995年宿泊施設・発電設備充実改修



18:28 弥山小屋全景



18:29 弥山小屋と鳥居